

ずいそう

## 北欧旅行で感じた不思議な事柄

高橋 英雄



フィヨルドを見るための北欧3ヶ国旅行で、不思議と感じた事柄について書いてみたいと思います。

北欧は福祉国家で住みやすい国である、との認識しかありませんでしたが、実際に行ってみると日本と異なり、不思議に思うことが多くありました。

### ●「改札口の無い鉄道駅」

日本の列車・地下鉄など、乗り物の利用では乗車券の確認及び精算は絶対にありますが、北欧では切符売場で切符は売っているが改札口はなく勝手に列車に乗車が出来、また、切符の回収もしない

### ●「跨線橋から直接、出入りが出来る鉄道ホーム」

改札口がないことは前述したが、ホームへの出入りが跨線橋から直接階段でホームに出入りが出来る

### ●「空港・鉄道駅も案内・発車合図もなく、車内放送も全くない不親切」

案内表示および発車・停車案内はなく自己責任で気を付けなければならない、乗客への気配りは全くない不親切

### ●「自己責任の強い道路管理」

観光立国であるが、山間部の道路は交通事故対策としてのガードレールもあまりない。道幅も狭く、交通事故は運転する者の自己責任であるとのことであった

### ●「昼間でもライトを点灯して走る自動車」

日本の自転車とバイクも相手に存在を知らせ、交通事故対策として点灯をしているが、北欧では全ての自動車が昼間でも点灯して走っており、バッテリーの消耗もすみ、燃費も悪くなることから行き過ぎのように感じられた

### ●「地点名を取消線で消した道路標識」

北欧の道路標識は路肩に行先地点名を掲げているが、通過した地点名は二本線で取消しており、土地勘のない外国人には取消線の意味が理解し難い

### ●「民間ビルを利用した街路照明のアンカー固定」

日本の照明支柱は道路施設であるが、北欧では日本の路面電車の架線のようにワイヤーに吊るして照明を行っている。このワイヤーは道路に隣接している民間ビルにアンカーし、ワイヤーを固定している。道路管理施設を民間ビル利用することは日本では考えられない

### ●「親・子の義務意識」

結婚はしないが親と別居する同棲家庭が大半である

とのことを堂々と公言する感覚が理解し難かった。

同棲により子供を育て家庭生活をしている家は多い。親は子供を育てる義務があるが、子供は大きくなって親の面倒を見る義務はなく、親と同居している家庭は余りないとのこと。福祉が進んでいて年をとっても生活が出来ることから、このような考え方となったのかも知れないが、助け合い精神の薄い割り切った考え方であり、寂しくないのかと感じた

### ●「休暇ばかりを楽しむ国民と見える」

休暇が多く、休日を楽しむ人が多い。働き甲斐を持っている人が少なく、活力の見えない国であると思われた。日中においても公園で寝ころび昼寝・日光浴をする人達が多く、どうして働かないのかと不思議に思ったものである。

それでいて別荘を持ち、プレジャーボート・キャンピングカーによるレジャーを楽しむ人が非常に多い。福祉国家とは何なのかと疑問を感じた

### ●「消費税が25%等、多くの税金が給与から天引き」

税金を多く取られるが老後は年金生活が保障された福祉国家であることから、勤労意識が低い。これは、働いても税金を多く取られ、良く働く者も怠ける者も老後の生活は同じであるとの意識から、働き甲斐が少なく勤労意欲が湧かないシステムとなっているためである。年金生活が保障されていることは羨ましい国のように見えるが、国自体が衰退するのではないかと心配になった

### ●「医療費が無料は全てではない」

医療費が無料なのは登録医院（かかり付け医院）のみの診療であり、それ以外での診療は実費となる（日本のような医療保険制度はない）

◎北欧を批判する気持ちはなく、これらは旅行中に感じた事柄であり、また、北欧全体を指すものとは思わないが、少しは国・国民性として見られるものであると思います。

日本では福祉国家・自己責任の重視が羨ましく伝わっているが、全てではないということをおっしゃっていただけであります。